



ヤングシート Young Seat

7/24²⁰²⁵ (木) 会場 東京文化会館

都響スペシャル
TMSO Special

指揮／アラン・ギルバート

ブラームス：
交響曲第3番 へ長調 op.90
(約35分)

ブラームス：
交響曲第4番 ホ短調 op.98
(約40分)

ホールでの 過ごし方

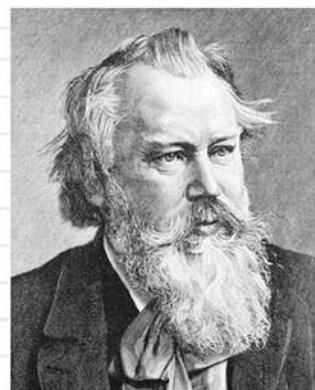
- ◎携帯電話など音や光を発するモノは電源を切りましょう。
- ◎演奏中は静かに聴きましょう！周りの人も演奏を楽しんでいます。
- ◎公演中の録音・録画、写真撮影は禁止です。
終演後のカーテンコール時のみ写真の撮影が可能です。

東京都交響楽団

『Program Notes』 プログラムノート

ブラームスと交響曲

今日のコンサートでは、ドイツを代表する作曲家ヨハネス・ブラームス（1833～1897）の交響曲を二つ演奏します。ドイツの大作作曲家といえば、J.S.バッハ（1685～1750）やベートーヴェン（1770～1827）がおり、ブラームスと同じ時代を生きた先輩にはシューマン（1810～1856）もいます。ブラームスは二十歳の



Johannes Brahms

ころ、憧れのシューマン家を訪ね、自分のピアノ曲を弾いて聴かせました。すると当時43歳だったシューマンは「天才だ!」とその才能を認め、さっそく音楽雑誌で紹介し、ブラームスの名前を広めてくれました。

そんな偉大な先輩たちの音楽を知るブラームスは、自分の作品に厳しい評価をする人でした。尊敬するベートーヴェンの9つの交響曲の存在が大きく、彼はなかなか交響曲を書けませんでした。ようやく第1番を完成させたのは1876年、43歳のとき。書き始めてから完成まで、なんと21年かかりました。しかし、第1番を書き上げたあとは、翌年に第2番を完成することができました。そこから少し間をあけて6年後（1883年）に第3番を作ると、その翌年には第4番に取り掛かり、生涯に4つの交響曲を残しました。今日は第3番と第4番を聴きましょう。

ブラームス：交響曲第3番 ヘ長調 op.90

交響曲第3番は、ブラームスが50歳の時の作品です。1883年の夏、ライン河に面した温泉地ヴィースバーデンに滞在し、そこで主に書き上げたと考えられています。その年の終わりにウィーンで初演がなされると、多くの称賛を得ました。シューマン（この頃にはすでに亡くなっていますが）の妻で、ブラームスの心の友であった音楽家クララは、「すべての楽章が宝石のよう」と称えています。また、第1楽章の立派で堂々とした響きについて、有名な指揮者のハンス・リヒターは、ベートーヴェンの交響曲第3番「英雄」のように素晴らしいと感じ、「ブラームスの『英雄』だ」と語りました。

第1楽章は冒頭から力強く管楽器が「ファ→ラ→上のファ」というモチーフを響かせて始まります。これは何度も出てくる重要な音型です。すぐにヴァイオリンが下行するメロディーの第1主題を奏でます。やがて木管楽器がほのぼのとした明るい第2主題を響かせ、これらがドラマティックに音楽を展開していきます。**第2楽章**では歌心に満ちたメロディーを、クラリネットやファゴット、ヴィオラやチェロの温かみのある音色によって提示します。**第3楽章**でチェロやホルンが奏でるメランコリックなメロディーは広く愛され、映画でも使用されてきました。**第4楽章**は颯爽としたテンポで静かに始まり、情熱的に発展します。やがて音楽は明るく穏やかな表情となり、落ち着きをもって締めくくられます。

ブラームス：交響曲第4番 ホ短調 op.98

ブラームスの最後の交響曲となった第4番は、51～52歳のとき（1884～85年）に作曲されたもので、夏の休暇を過ごしたのどかな田舎町ミュルツツーシュラクで大半が書かれました。

第1楽章はその冒頭から、ヴァイオリンが物悲しい主題を奏でます。オーボエやクラリネットがリズムミカルなモチーフを聴かせたのち、チェロとホルンが伸びやかに歌うメロディーなども美しく印象的です。**第2楽章**は管楽器の伸びやかなメロディーを、弦楽器のピッツィカート（弦を指で弾く奏法）が伴奏します。静けさのあるこの音楽は、フリギア旋法という中世の古い音階に基づくものです。やがて弦楽器は流れるような音楽も奏でます。一転して、明るく弾けるような曲想の**第3楽章**は、もっとも短い楽章です。ティンパニやトライアングルといった打楽器も活躍します。最後の**第4楽章**では、バッハの『主よ、私はあなたを仰ぎ望む』というカンタータ（宗教声楽曲の一種）からベース音型を取り出し、それを繰り返していく「パッサカリヤ」形式で作りました。冒頭でテーマ（ミ→ファ#→ソ→ラ→ラ#→シ→下のシ→ミ。バッハの引用と言いましたが、ブラームスにより「ラ#」が加えられています）が管楽器により力強く演奏されます。



その後、この音型に重ねる旋律や和音、楽器の組み合わせを変化させた30の「変奏」が続き、最後は堂々と締めくくられます。

旋法やバッハ時代の形式など、古き佳き伝統を取り入れながらも、ブラームスはこの交響曲で独自の音楽を築き上げたのです。

文／飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

都響公式  YouTube チャンネルでは、今回の指揮者アラン・ギルバートが以前指揮したモーツァルトの交響曲第40番の映像を公開しています。



♪ モーツァルト： 交響曲第40番 ト短調 K.550

第956回 定期演奏会Bシリーズより
2022年7月25日（月）
サントリーホール

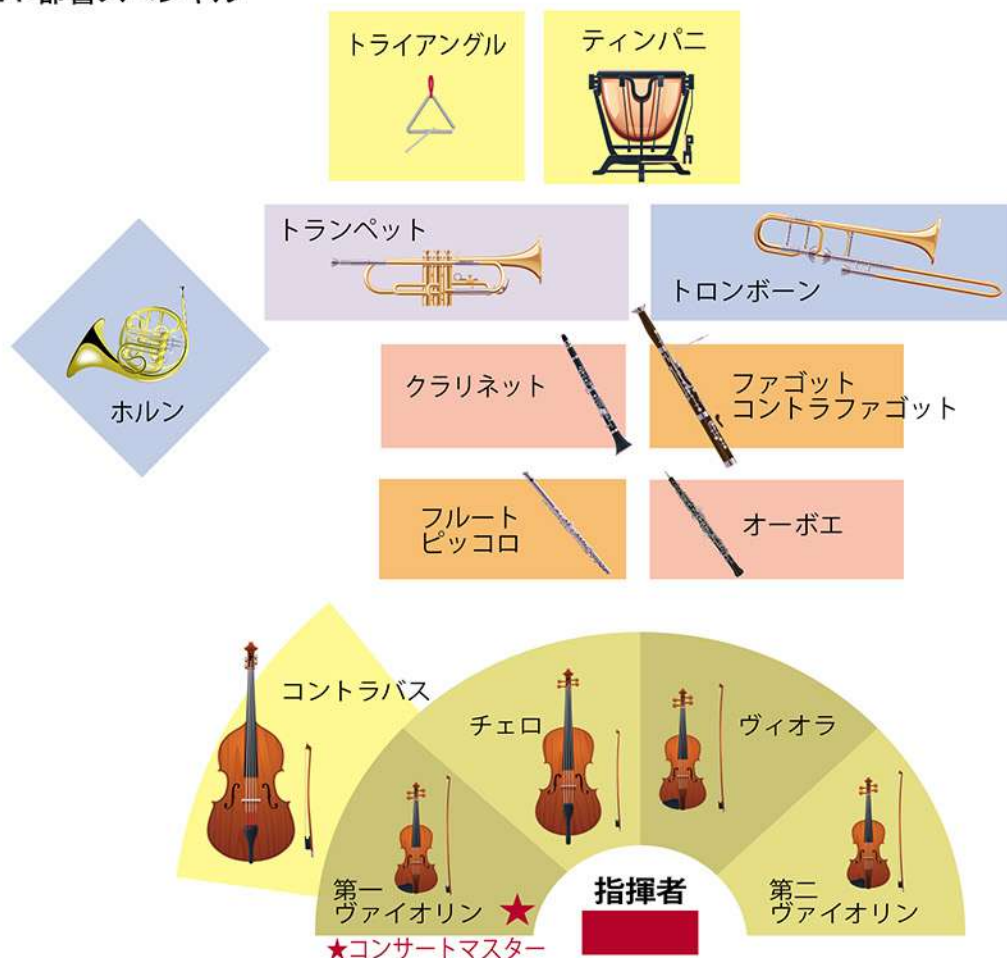


他にも都響の楽団員のインタビューや「ラジオ体操第一 オーケストラ演奏」など、東京都交響楽団の演奏を映像でお楽しみいただけます。

【オーケストラ配置図】

7/24 都響スペシャル

※楽器の配置は一例です。
当日のステージで確認してください。



Profile



© Peter Hundert

指揮

アラン・ギルバート Alan GILBERT, Conductor

ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団桂冠指揮者。
2017年まで8シーズンにわたってニューヨーク・フィルハーモニック音楽監督を務め、芸術性を広げる活動が高く評価された。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団などへ定期的に客演している。オペラではメトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座などへ登場している。メトロポリタン歌劇場とのDVD『ドクター・アトミック』(Sony-Classical)、ルネ・フレミングとのCD『ポエム』(Decca)でグラミー賞を獲得。

都響とは2011年7月に初共演、2018年4月に首席客演指揮者へ就任した。

管弦楽

東京都交響楽団 Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

東京オリンピックの記念文化事業として、東京都が1965年に設立し、2025年に創立60周年を迎えた。都響(ときょう)という愛称で親しまれている。

東京文化会館(上野)を本拠地として、オーケストラの演奏会を開催する他、交響組曲『ドラゴンクエスト』(全シリーズ)などゲーム音楽の演奏、教育活動や福祉施設での出張演奏など多彩な活動を展開している。



©Rikimaru Hotta



<https://www.tmsso.or.jp/>